




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	本田 陽亮
論文担当者	主査 中込 隆之 
	副査 新村 健 
	副査 島 正之 
学位論文名	Predictors of postoperative physical functional decline at hospital
	discharge in elderly patients with prolonged intensive care unit stay after
	cardiac surgery (長期集中治療管理になった高齢心臓外科術後患者に
	おける退院時の身体機能低下に関連する因子)
論文審査の結果の要旨	
<p>心臓外科術後における長期の集中治療室 (intensive care unit ; ICU) 滞在は、身体機能の低下と関連している。そこで、本研究では、長期 ICU 滞在となった高齢心臓外科術後患者における、術前(入院時)と術後 (ICU 退室時、退院時) の身体機能を評価し、ICU 退室時の身体機能評価の有用性に関して検討した。</p> <p>術後 72 時間以上 ICU に滞在した 65 歳以上の心臓外科術後患者を対象に、後ろ向きコホート研究を実施した。術前および退院時の身体機能は Short Physical Performance Battery (SPPB) を用いて評価した。ICU 退室時における身体機能は Functional status score for the ICU (FSS-ICU) および Medical Research Council Sum Score (MRC-SS) を用いて評価した。退院時の SPPB が術前の SPPB に比べ、1 ポイント以上の低下を認めた者を身体機能低下群、1 ポイント以上の低下がなかった者を身体機能維持群とした。退院時の身体機能低下関連因子は多重ロジスティック回帰分析にて検討した。</p> <p>長期 ICU 滞在となった高齢心臓外科術後患者の 28.0%で、退院時の身体機能低下を認めた。また、多重ロジスティック回帰分析の結果、MRC-SS (オッズ比 ; 0.96、95% CI ; 0.82 -0.99) および人工呼吸器管理日数 (オッズ比 ; 1.27、95% CI ; 1.01-1.64) は、退院時の身体機能低下と独立して関連していることが分かった。</p> <p>以上の結果より、学位申請者らは、ICU 退室時の MRC-SS および人工呼吸器管理日数は、長期 ICU 滞在となった高齢心臓外科術後患者における退院時の身体機能低下の予測因子であり、ICU 退室時における身体機能評価は、退院時の身体機能低下の予測に有用である可能性を見いだした。本研究は、臨床的に意義のある研究であることから、学位授与に値すると判断した。</p>	